

「内容面」に意識を向けて考えや気持ちを伝え合う生徒の育成
～領域を関連させた言語活動を繰り返し取り入れた単元構想の工夫を通して～

長岡市立旭岡中学校

鎌田 雅俊 (21年度)

当校生徒の実態は・・・

- ・全国学力・学習状況調査「書くこと」における問題別結果では、「日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうか」を測る問題で、全国正答率7.4%のところ、本校は5.1%であり、全国を下回る結果であった。
- ・英語を使って表現したいと思っているが、何をどう書いたらよいかわからず、もどかしさを感じたり、間違いを恐れてなかなか書き始めることができなかつたりする生徒がいる。

学習指導要領解説及び令和5年度全国学力・学習状況調査【中学校英語】報告書によると・・・

- ・教師は、「書いて伝える」ことに対する意欲を高め、求められている内容を適切にまとまりよく書くための工夫について指導する必要がある。
- ・自分の考えや気持ちを英語で書く言語活動を継続的・計画的に取り入れることが重要である。
- ・メモ書きなどの補助を利用しつつ、即興で話したり書いたりする活動を行い、同じタスクについて相手を変えながら複数回繰り返して学びを深めていくことが重要である。

よって、私は以下の3本柱を軸に、領域を関連させた活動を繰り返しながら「内容面」に視点を向ける実践を続けて、まとまりのある英語を書くことのできる生徒を育てていく。

思考ツールの
効果的な活用

板書を構造化した
中間指導の
継続的な実施

単元を通した
ゴールに向かう
類似の言語活動の
計画的な配置